

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載  
 【部門区分】第 7 部門第 1 区分  
 【発行日】平成 21 年 9 月 10 日 (2009.9.10)

【公表番号】特表 2009-512124 (P2009-512124A)  
 【公表日】平成 21 年 3 月 19 日 (2009.3.19)  
 【年通号数】公開・登録公報 2009-011  
 【出願番号】特願 2008-533949 (P2008-533949)  
 【国際特許分類】

H 0 1 R 4/02 (2006.01)

B 2 3 K 20/10 (2006.01)

【F I】

H 0 1 R 4/02 C

B 2 3 K 20/10

【手続補正書】  
 【提出日】平成 21 年 7 月 17 日 (2009.7.17)  
 【手続補正 1】  
 【補正対象書類名】特許請求の範囲  
 【補正対象項目名】全文  
 【補正方法】変更  
 【補正の内容】  
 【特許請求の範囲】  
 【請求項 1】

互いに相対的に変位可能な境界部材によって取り囲まれた圧縮室に導体を挿入し、圧縮室の中で、境界部材の 1 つをなし、超音波振動させられる超音波溶接装置の振動音極により溶接する、剛性を有する扁平な支持体などの少なくとも 1 つの第 1 の電気導体と、素線などの少なくとも 1 つの第 2 の電気導体と、の間の溶接継手の作製方法において、該圧縮室内で前記第 1 の導体に 2 個以上の第 2 の導体を逐次溶接することを特徴とする方法。

【請求項 2】

順次続く溶接操作の際に、第 1 の導体を圧縮室に対して相対的に変位させることを特徴とする請求項 1 に記載の方法。

【請求項 3】

第 1 の導体を圧縮室に対して変位させることを特徴とする請求項 1 又は 2 に記載の方法。

【請求項 4】

等しい、ないしは不等の横断面の複数の第 2 の導体を第 1 の導体に溶接することを特徴とする請求項 1 ないし 3 のいずれか 1 つに記載の方法。

【請求項 5】

複数の第 2 の導体を第 1 の導体の上に重ねて溶接することを特徴とする請求項 1 又は 4 に記載の方法。

【請求項 6】

複数の第 2 の導体を第 1 の導体の互いに隔たる区域に溶接することを特徴とする請求項 1, 4, 5 のいずれか 1 つに記載の方法。

【請求項 7】

複数の第 2 の導体を第 1 の導体の相異なる平面にある区域に溶接することを特徴とする請求項 1, 4, 5 のいずれか 1 つに記載の方法。

【請求項 8】

複数の第 2 の導体を第 1 の導体の相隔たる互いに平行な平面にある区域に溶接することを特徴とする請求項 1, 4, 5 のいずれか 1 つに記載の方法。

**【請求項 9】**

第 1 の第 2 導体として接地ケーブル又はバッテリーケーブル、第 2 の第 2 導体として制御線を第 1 の導体に溶接することを特徴とする請求項 1 ないし 3 のいずれか 1 つに記載の方法。

**【請求項 10】**

少なくとも 2 個の第 2 の導体を、第 1 の導体の縦軸を横切る区域に並列して第 1 の導体に溶接することを特徴とする請求項 1 , 2 , 6 のいずれか 1 つに記載の方法。

**【請求項 11】**

第 1 の導体に一群の第 2 の導体と 1 個の第 2 の導体又は一群の第 2 の導体を逐次溶接することを特徴とする請求項 1 , 6 , 10 のいずれか 1 つに記載の方法。

**【請求項 12】**

第 1 の導体から保持片、例えば折れ曲りラグが延出する構成の請求項 1 に記載の方法において、最後の第 2 の導体と第 1 の導体を溶接するとき又は溶接した後に、第 2 の導体の固定のために、振動音極に超音波を励振させて保持片を第 2 の導体の方向に折り曲げることを特徴とする方法。

**【請求項 13】**

超音波溶接装置の出力が、第 1 の導体に溶接される複数の第 2 の導体を 1 回の溶接操作で全部は溶接できないか又は確実に溶接できないように設計されていることを特徴とする請求項 1 に記載の方法。